



▲牧山自然岩展望台からの眺め



▲龍門ダム湖畔から牧山(左)と牧Ⅱ峰



▲蛙岩展望台からの眺め／右下は龍門ダム

牧山:山の玄人が求めてやまない雄山

山名 RQNo. 2 牧山
RQNo. 3 青牧山(牧Ⅱ峰)

ルート №2-2 龍門ダムから周遊

登山口 RQNo. # 龍門キャンプ場登山口
RQNo. 20 龍門第2水汲み場登山口

最寄駅 松浦鉄道西有田駅
登山口まで4kmの車道歩きが必要

駐車場 龍門山の家駐車場
80台(中型バス2台)可能
公衆便所、案内所あり

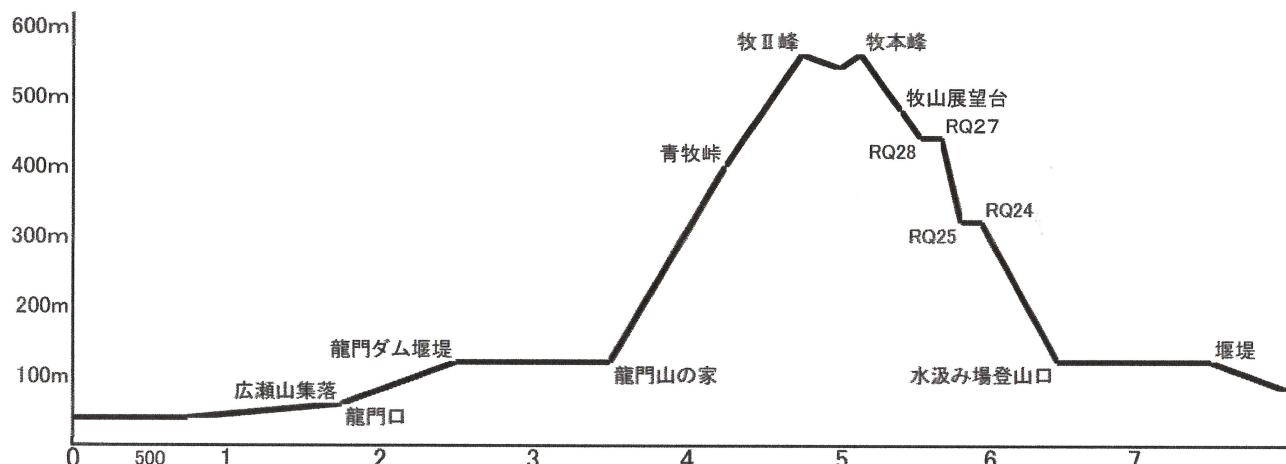
(注) RQの意味

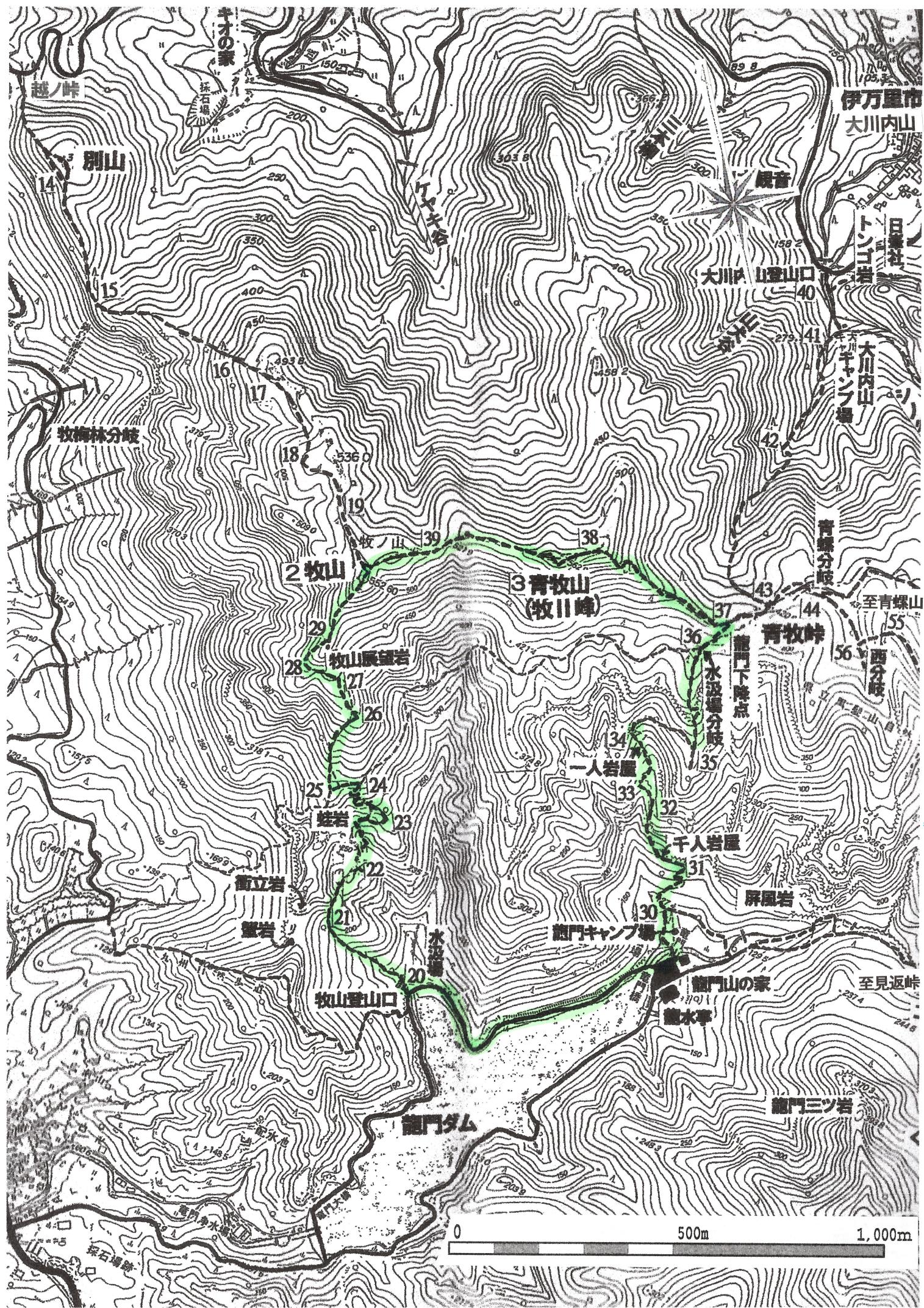
レスキュウポイントの意味です。
本来なら、RESCUEですから、短縮造語は「RC」とすべきですが、
ここでは「RQ」として表記しています。

コースタイム

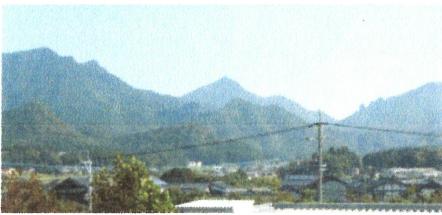
MR西有田駅	40分	龍門ダム入口	10分	龍門ダム堰堤	10分	龍門山の家	5分	青牧峠登山口/RQ30番
青牧峠登山口/RQ30番	45分	青牧峠 RQ37番	30分	牧Ⅱ峰 RQ3番	20分	牧山本峰 RQ2番	10分	自然岩展望台/RQ29番
自然岩展望台/RQ29番	15分	龍門下降点 RQ27番	30分	蛙岩展望台 分岐/RQ25	10分	河鹿沢分岐 RQ24番	30分	水汲み場登山口/RQ20番

高低図





アプローチ



▲西有田駅跨線橋から望む牧山と主峰の青螺山



▲県道281号の広瀬山入口交差点と牧山



▲黒髪連山の登山基地・龍門山の家

公共交通機関を利用する場合

JR有田駅から龍門山の家まで距離は6kmで、応法バス停まで有田町コミュニティバス利用の場合は、半分を省略できる。

MR西有田駅から龍門山の家までは5kmで、コミュニティバスは無い。田園風景をのんびりと歩くことになる。

西有田駅の南側にある跨線橋の上からは、黒髪連山を一望できる。

牧山は中央に鎮座する青螺山の左脇に、デーンと横たわっている。

を目指す登山口の龍門峠は、青螺山と後黒髪峰の山腹である。

有田川に架かる志尾里橋を渡り、西有田中学校の前を通過し、矢房神社下の信号のある交差点で、県道を横断して、さらに東(まっすぐ)の車道を行く。

北(左)手に牧山が近づいてくる。

製陶所を左手に見送って出た三叉路を東(右)へ行き、すぐに市街地の道を進む。

狭くなった車道沿いの街は広瀬山集落で、江戸期から有田外山の窯場である。

突き当りの4差路を南(右)へ行く。4差路を北(まっすぐ)行けば、

かつての龍門道だが、途中で龍門ダムに当たり、行き止まりとなる。

4差路を東(右)へ、製陶所の間を通り、橋を渡ると龍門峠への入り口車道となる。

ここを東(左)へ登って行く。登り切って龍門ダムの堰堤脇に上がる。

ここで道が分かれるが、車道はダムを時計まわりに一方通行となる。

歩くのには交通規制はなく、堰堤を渡らず東(まっすぐ)に進む。

途中、木立の向こうにこれから登る牧山の大きな山容が見てとれる。

マイカー利用の場合

カーナビ設定:龍門山の家(0955-46-4022)

県道281号(伊万里有田線)の広瀬山入口もしくは龍門ダム入口から広瀬山地区に入り、龍門山の家(0955-46-4022)を目指す。

広瀬山地区共同墓地前の3差路から東進して上り、800mで龍門ダム堰堤に着く。

ここから時計廻りに一方通行で、1500m先の龍門山の家駐車場(80台)に車を置く。

登山ルート



▲キャンプ場を通過した沢口に登山口がある



▲紅葉支沢右岸の登山道／きつい登りだ

龍門山の家から青牧峠へ

山の家と公衆便所の間から、橋を渡り、キャンプ場の通路を登っていく。

小さな沢を岩で渡ると、登山口(RQ30)である。

遊歩道をまっすぐ行けば龍門渓谷、見返峠を経て青螺山や黒髪山への道。

青牧峠へはこの登山口から山道へ入る。

樹林の中へ入ってすぐ、紅葉沢へは進まず、

東(右)にせり出した支尾根の斜面を、踏み跡頼りに登るようになる。

登山道の傾斜はすぐに急になり、無名沢への取り付き(RQ31)を左へ登っていく。

踏み跡や石積みケルン、黄ペイント頼りに登って行くと「千人岩屋」に入る。

岩屋を通過し、樹木の間を右に曲がれば、登山口の紅葉沢の左岸に出る。

左岸といつても沢から20mも高い所である。

登山道は岩の間を通過し、せり出した尾根の斜面を登って行く。

登山道は巨木の所(RQ32)で、西(左)へ曲り、紅葉沢へと向かう。

すぐに足場の悪い所があり、ザイル頼りに上の大岩を越すか、

下へまわって通過してもよい。

水の無い紅葉沢(支沢)を、右岸へ渡り、巨木(RQ33)を回り込んで登って行く。

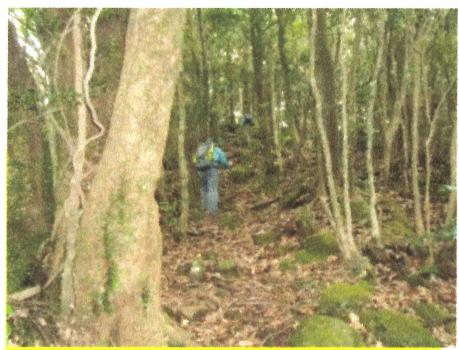
一人岩屋を左手に見送ると、すぐに渡渉点(RQ34)があり、左岸側へ渡る。

渡渉点と言っても普段は水無沢だが、紅葉支沢上部は滝となっている。

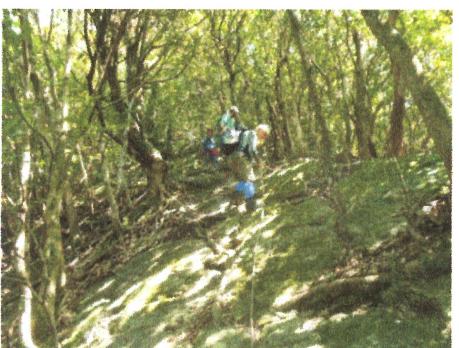
登山道は斜面をトラバース気味に進み、RQ35番の支尾根に出る。



▲久安平を行く／平坦路に心和む



▲牧II峰への最後の直登



▲牧本峰直下の岩場を下る



▲南尾根の急傾斜を下る



▲RQ22番へ樹林の斜面を踏み跡だよりに下る

支尾根を南(右)に下ると岩場で、転落の危険性もある。下らない方がよい。

青牧峠へは支尾根を北(左)へ上る。

すぐに小さな岩場を越えて、支尾根を登っていくと、「久安平」と呼ばれる樹林の中の尾根に出る。傾斜がなく心地よい。

踏み跡を辿っていくと檜植林帯に出て、水汲み場分岐(RQ36)に出る。

水汲み場への登山道は、今は荒廃し、道迷い人も多い。立ち入らないでほしい。

青牧峠から牧山へ

水汲み場への道標から、北東(右)へ斜面をトラバース気味に進むと、

青牧峠西端の三叉路(RQ37)に着く。東(右)へは青螺山・見返峠・大川内山へ行く。

牧山へは三叉路を西(左)へ、なだらかな尾根を登るようになる。

尾根の岩を右へ巻く所が2か所あり、2か所目はザイル頼りに大きく巻くことになる。

巻き終えた所から尾根は急になり、すぐに北尾根分岐(RQ38)に立つ。

分岐を西(左)の主尾根方向へ進む。すぐに急斜面となり、木立につかまって登りきる。平坦な岩尾根に変わり、さらに急斜面を登りきると、牧II峰(RQ3)に着く。

牧II峰からは方向を北に変え、踏み跡たよりに下る。

傾斜は初め急だが、次第に緩やかになり、東西に延びた吊り尾根を歩く。

3回ほどの上下で、鞍部に着く。RQ39番である。

正面の斜面を踏み跡たよりに登り、小さな鞍部を経て、再度登ると、山頂手前の三叉路に着く。北(右)は、牧山主尾根づたいに越ノ峠への道である。

山頂(RQ2)は三叉路の西(左)で、道標が見えている。

牧山から牧山新道で龍門へ

牧山本峰は樹林に閉まれて展望はないが、山頂から10分のところに展望台がある。そこまで下って、休憩しよう。

山頂から西へ下る。木立の中の細道だが、すぐに岩場に出る。

ザイルをたよりに慎重に下りきると、南西に伸びた痩せた岩尾根を進む。

RQ29番の小さな鞍部に下りつく。龍門へは西(右)へ下る。

自然岩展望台はすぐ目の前である。木立をかき分けて展望岩に立つと、

眼下に麓の西有田の田園風景が広がり、正面には国見連山が横たわっている。

牧山は全体に、展望の無い樹林の中を歩くルートだけに、

この自然岩展望台からは感動的な光景を楽しむことができる。

龍門へは、先ほどの小さな鞍部(RQ29)まで戻り、この展望台の北斜面を下る。

ザイルに確保されてはいるが、急斜面で気が抜けない。

ザイルが途切れた岩場は、ザイル頼りの方が危険と考え、あえてザイル設置を見送った所でもある。しかし今は、誰かがザイルを設置している。

岩場を下りきった所から、この自然岩展望台の岸壁を、左まわりに巻くように進む。途中に西尾根分岐の所にRQ28番がある。

更にまわりこみ、斜面をトラバース気味に進むと、龍門下降点(RQ27)の岩に着く。

ここから、南(右)へ下り、樹林の中の尾根道を辿る。

RQ26番の所で、下山道は尾根を外れ、西(右)によりに分かれ。

すぐに南(左)へ向きを変え、標高差80mの尾根をほぼ垂直に南下する。

ザイルが途絶え、傾斜がなだらかになるRQ25番の所から

牧山新道は東(左)へ折れ、再び尾根をトラバースする。

なお、急降下してきた尾根をまっすぐ進めば、3分で蛙岩の展望台に行く。

蛙岩展望台からは龍門ダムが見下ろせ、岩場には初夏、ウンゼンマンネングサのお花畑を見ることができる。



▲RQ21番へ向かう蛙岩根を通過する。
この先に崩壊寸前の桟橋あり、要注
意。

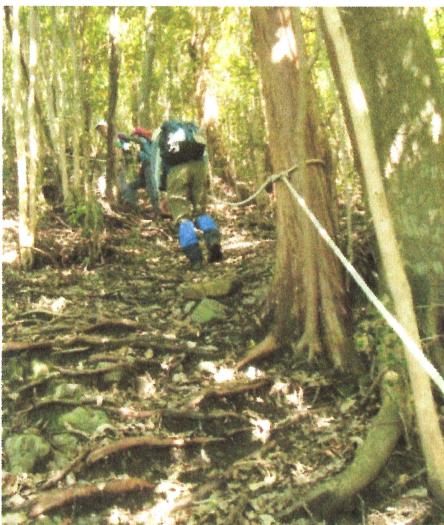


▲下り着いた河鹿沢／龍門ダム周回道の河鹿橋が見えている

みどころ



▲龍門ダムと牧山新道／谷の奥から11
時方向に延びる尾根を登ってゆく



▲牧山新道の上部：南尾根／急斜面がこの山の「魅力」

牧山南尾根の支尾根3本を越え下る

トラバース終点の河鹿沢分岐(RQ24)から、南(右)へ下る。

3回のターンを繰り返してRQ23番の尾根に出る。

ここから下山路はこの支尾根を外れ、西(右)に折れ、小谷への踏み跡を下る。

ここも3回のターンを過ぎて下り、道標に従い沢を渡り、蛙岩の岩根を通過してRQ22番の尾根に出る。

この尾根も西(右)へ折れて小谷へ下ると、再び岩壁の下を通過し、桟橋状を通過してRQ21番の3本目の支尾根を、再び西(右)へ折れて下ると小さな沢の頭に出る。

しばらくはこの沢を下る。

ケルンとテープを頼りに沢の右岸へ移り、足場の悪い急斜面を下る。

傾斜が緩くなった所で、再び沢に下りて、すぐに沢の左岸へ出る。

道標に従い、東(右)へ折れ、下っていき、石ころで埋まったガレ場を下ると、河鹿沢の右岸に下り立つ。

右岸を下れば、すぐ眼の前に河鹿橋が見え、橋の脇を登って車道に出る。

マイカーを留めた龍門山の家へは車道を東(左)へ800m、公共交通利用の場合は、車道を西(右)へは龍門ダム堰堤まで800mである。

龍門ダム堰堤方面へ80mも進めば、九州自然歩道が右に分岐する。

しかし、この自然歩道は山を1つ越えて下ることになり、さらに荒れていて、道を見失い引き返す人も多い。

牧山新道

牧山は男性的な山塊です。このため、登山道では急登を強いられ、さらに、ほとんどが展望のない樹林の中に刻まれています。

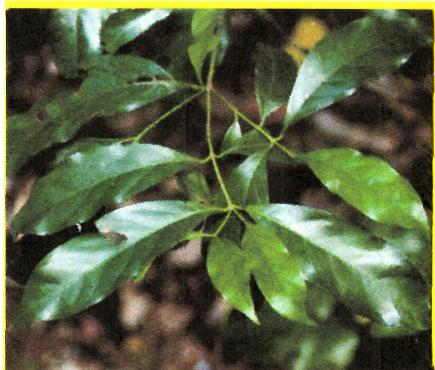
登山者も少なく、その分、静かな山行を楽しむことができる山でもあります。

牧山本峰から龍門水汲み場へ直接下る、牧山新道は、昭和62年の九州国体の競技ルートとして、開通しました。

このルート開通の主目的は、九州ミニ国体山岳競技のルート使用で、尽力されたのは当時、佐賀県山岳連盟の事務局長だった多田修さん率いる、若手登山家でした。この時、黒髪山を守る山の会でも、第5回黒髪やまびらきの記念として、ルート開拓をしていたので、時々、山中でお会いしたものです。

この九州国体の時のエピソードを1つ紹介します。、

黒髪少年自然の家を出発して見返峠から龍門渓谷を下り、龍門山の家を経て、河鹿沢水汲み場からこの牧山新道を駆け登って、ゴールの牧山本峰まで、優勝タイムは62分。脅威的でした。



ミサオノキ アカネ科 黒髪山系の植物：110ページ

植生	林内に生える
樹高	2~8mの常緑小高木
葉	長橢円形の全縁で対生し、1節ごとに葉の片方が針状に退化する。
	托葉は披針状だが、しばしば托葉痕のみが残る
樹皮	滑らかな茶褐色
和目の由来	
青々とした姿に、人の操の堅さを重ねたものと、牧野富太郎が命名した	



アリマウマノスズクサ ウマノスズクサ科 黒髪山系の植物：102ページ

樹高	大型のつる性本木
葉	長い三角形で3浅列する。 幼葉は細長く、基部が左右に耳状に丸くな
花	萼筒の内面が黄色、縁が艶のある褐色で反り返り、逆三角形。開花期：5月
和目の由来	
兵庫県有馬地域で発見されたことによる。	



ウンゼンマンネングサ ベンケイソウ科 黒髪山系の植物：34ページ

植生	岩場に生える。九州北部にほぼ偏在する。
高さ	10~15cmの多年草
茎	赤褐色を帯びる
葉	枯れた葉が落葉せずに基部に残る。 葉は互生し、密に付き、扁平な線形で先が鋭くとがる
花	花弁は離生し、黄色で披針形。開花期：6月
和目の由来	



サンコウウチョウ フィールドガイド「日本の野鳥」：260ページ

大きさ	雄：45cm、雌：18cm
習性	夏鳥として、本州以南の低地や山地の良く茂った林に渡来する。
特徴	雄の中央尾羽はとても長い。若鷹は比較的に短い。 雄は頭部と胸・脇が紫黒色で、背は紫黒褐色で、尾は黒色。 嘴と目の外縁はコバルト色で、原は白い
	雌の背と尾は橙紫褐色で、
啼き声	地鳴き：ギッギッ さえずり：チーチョ、ホイホイホイと口笛のよう。

写真
日本野鳥の会佐賀県支部
加藤芳隆

カワセミ フィールドガイド「日本の野鳥」：208ページ

大きさ	雄・雌とも17cmで、ほぼスズメ大
習性	低地から山地の池・湖沼などで留鳥
特徴	頭が大きく嘴が長い。 頭から胸部までの線・翼・尾羽は金属光沢のある緑色で、背から上尾筒はコバルト色で、目と喉の下は白い。
捕食	水の上の横枝や水中の杭や石などに止まって、魚を狙い急降下する。 低空飛翔後に急降下することもある。

